

目的 食生活の欧米化に伴い、近年動脈硬化性疾患が増加しつつあり、高脂血症特に高コレステロール血症がこれら発症・増悪に密接な関係があるとされている。日常摂取する食品でも特に卵黄はコレステロール含量の高い食品ではあるが種々実験によって、摂取量と血中コレステロールとに密接な相関のない事が確認されている。これは吸収量に限界のあることと、卵黄成分中に有効作用のあることが想定される。そこで先にわたくし共は卵黄レシチン投与がラット血清脂質におよぼす影響として、特にHDL-コレステロール値の増加傾向にあることを報告した。今回引き続き卵黄レシチンのpureなもの、および卵黄中性脂肪投与による血清脂質などの変動について検索を試みた。

方法 前回同様ウィスター系雄ラットの幼若群と成熟群を用いて投与実験を実施した。卵黄レシチン投与群は粗脂質4.6%の基本飼料にpureなもの1%・3%・および5%添加群とし、それぞれ6週間並びに12週間飼養し血液を採取、分析した。卵黄中性脂肪投与群も同様、基本飼料に3%および5%添加群についてそれぞれ6週間並びに12週間飼養し血液を採取、分析した。

結果 卵黄レシチン投与群ではいづれもHDL-コレステロールの増加が認められ幼若の変化は微増であったが成熟12週飼養5%添加群で著しい増加がみられた。一方卵黄中性脂肪投与群では逆に幼若群においてHDL-コレステロールの増加傾向がみられた。血清遊離脂肪酸値は各群共僅かであるが増加傾向を示したが、同時に血清アルブミン値も増加傾向を示しており血液循環には良好な結果が得られるものと思される。